

【評議員挨拶】 OLY・アーティスティックスイマー・小谷実可子評議員

この協議会の評議員をお引き受けした際、JOCの常務理事、OAJ会長、OCAアスリート委員長でもなく、OLY、オリンピックンとして、そしてアスリートとして参加させていただきたいと申し上げました。

JOCでは、選手の強化、派遣、ジュニアの育成、普及、教育などを行っております。OAJでは、オリンピックンの価値を高め、磨き、発信し、社会のために役立てるように努めています。OCAアスリート委員長としては、アジアのアスリートの環境はもちろん、はびこる八百長からアスリートたちを守る取り組みなども進めています。全て大事ですけれども、その私の中の根源、柱となっているのは、ひとりのアスリートとしての自分の思いです。

今年私は、30年ぶりに競技復帰をし、日本で開催された世界マスターズ選手権で3種目に挑戦し、念願の3つの金メダルを獲得できました。一個人の目標に向けて頑張った結果としてのメダルですが、こうしてご報告すると、多くの方が喜んで、拍手をくださいます。試合に向かう途中でたくさんの方から「頑張って」「楽しみにしているよ」と応援の声をいただき、周りが元気になっていくのを感じました。今年身をもって、スポーツにはこんなにパワーがあって、周りに元気を与えることができ、そして周りの応援がこんなにもアスリートのエネルギーになるんだということを改めて感じました。

そういう思いをすればするほど、スポーツというのはアスリートだけのものではない、アスリートが、そうして頑張ったり、拍手をもらったり、輝くことができるのは、それを支えてくださっている方、運営してくださっている方がいらっしゃるからだと感じました。

アーティスティックスイミングの競技役員たちは、日頃はOLやパートタイムをしながら必死に働き、週末になると、どんどん新しくなるルールを夜遅くまで勉強して、乳飲み子を抱えながら研修の講師を務め、競技会ときには、週末を潰して大会の運営、サポートに行きます。日当は、2,000円か3,000円です。役員たちは「今回3,000円の役になった、ラッキー」「2,000円だったけど、今回はお弁当がもらえたからよかった」、そんなふうにして競技大会を支えてくださっているのです。

私は、この協議会の評議員をお受けするときに、少しでも、このようにスポーツを支えてくださっている方々が、スポーツ愛だけではなく、誇りを持って、そしてもっと楽に、積極的にスポーツを支えられるようになり、これに私の経験を生かせることができるのであれば、お手伝いをさせていただきたいとお願いをしました。

本日、スポーツ界、政界、財界の皆さんがお集まりのことと思います。皆さんのお知恵と経験と、そして「チーム・スポエコ・ジャパン」とでもいうのでしょうか。一つになって、日本のスポーツ産業がより活性化することで、スポーツに関わる全ての人たちがより豊かに、そしてそのスポーツの力をもって、よりすばらしい健康な明るい日本の社会が築かれまますように、そんなお願いを込めて、私の挨拶にさせていただきたいと思います。